

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 邦文



■ 公民館の利用向上



今年も4月から、何人かの市役所職員および教職員OBの公民館長が誕生しました。情性に流されず、時代にふさわしい新しい公民館のイメージ作りに挑戦してほしいと激励したところです。

6、7年前、公民館には腰掛に座って用の足せるトイレがほとんどないことから、足の遠く高齢者が何人もいると耳にし、全公民館を対象に男女各1箇所ずつ洋式トイレに改修したところ、とても喜ばれたそうです。

しかし、イベントの開かれる大きい部屋が2階のみにある公民館では、階段に困る人が沢山いて、手すりに様々な工夫を凝らしても、問題の解決には程遠く、頭痛の種でした。高齢化がドンドン進む今の時代です。いくつになっても公民館を利用してほしい。これが公民館へのエレベーター設置を決めたきっかけです。予算の余裕は1館が限界でした。調査すると、急な階段に難渋している公民館は複数ありましたが、中には建て替え予定もあり、すぐ工事にとりかかれるのは耐震基準を満たしている赤崎公民館のみということが判明しました。第1号はこうした理由で決まりましたが、早期に第2号以下が続くことを期待しています。

■ お別れの御挨拶

市民のみなさん、大変お世話になりました。4月23日で3期12年の任期が満了します。裁判官時代、ほぼ3年置きの転勤で別れを繰り返したのですが、今回は、市長から一市民への転身にすぎず、同じ故郷の空の下、立ち位置が変わるにすぎません。とはいえ、感慨はひとしおのものがああります。また、12年前の本職(弁護士)に戻り、地域のみなさんにどれだけお役に立てるか、挑戦してみたいと思っています。

思い起こせば12年前、本市の内情を何も知らないまま、ただ「市民が主権者であることを忘れず、公平・公正な行政を貫くこと」を市民に誓って市長に選ばれ、以来、沢山の苦労もありましたが、喜びもありました。笑い声も自然に出ることが多くなりましたし、お蔭様で、以前には経験できなかった、社会の中に飛び込んだ伸び伸びした生活を満喫することができました。全国に市が約800ありますが、裁判官出身の市長は私一人しかいないのが不思議な気がします。私の高校時代の恩師のひとり、母校近くの自宅で、「大学受験生向け文語文法」を未だに執筆されています。満96歳。大変刺激になります。

